

Title	中国企業に対する交渉優位性の比較研究 - 日本企業と香港華僑企業 -
Sub Title	
Author	廖緒豊(Riyou, Shiyohou) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1134号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1134">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1134</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 廖 緒豊

主査 石田 英夫

副査 小野桂之介

青井 倫一

所属 石田 英夫 研究室

## 中国企業に対する交渉優位性の比較研究

—日本企業と香港華僑企業—

現在、中国は全世界の投資家にとって無視できない存在である。1992年から外国企業の対中投資が急増してきた。しかし、これらの外国企業はどのような交渉力を持って中国側の相手に自分にとって有利な投資条件を主張するのか。最初から自らの交渉力はいったいどこにあるのかを理解しておかないと、適切な交渉戦略を計画し、自己の交渉力を発揮することもできない。従って、本論文では、日本企業及び対中投資が最も多い香港の華僑企業を選んで、それぞれの交渉力を比較することとした。

この分野の従来の研究蓄積は少ないため、本研究では、まず中国の上海にて予備調査を行い、その結果に文献調査の資料を加え、本研究の作業仮説を十箇設定した。そして、対中投資の交渉実態をもっと把握するため、日本企業を五社、香港華僑企業を四社選んで、面接調査を行った。

この調査の結果、結論として分かったことは、日本企業の対中交渉力と華僑企業の対中交渉力を比較するとき日本企業は技術力の面で華僑企業より有利である。そのかわりに、華僑企業は文化と人脈の面で有利な立場に立つ。インサイダー情報は交渉当時には重要ではないことと、技術力だけではなく、商品ブランド力、また中国中央政府だけではなく、地域政府の重要性も明らかにした。それから、企業規模によって、それぞれの交渉力要因に異なるウェイトをつけられることが判明した。

最後にこの結果に基づき、一般投資者、香港華僑企業及び日本企業に対して今後の対中投資を行うときに交渉力を強めるための提言を述べた。